

図書館長賞

「 私の理想の図書館 」

公共学科 3年 弓岡 郁菜子

最近の図書館には併設されたカフェがよくあるらしい。図書フロアの本を持ち込んで、本を読みながら美味しい飲み物や食べ物をいただけるようだ。なんて素敵なのだろう。一度読み始めたらなかなか止まらない私にとっては最高の読書の間だと感じた。でも、せっかく図書館で本を片手に食事ができるのならば、本の中に出てくる料理を食べてみたい。そう、まるで本の世界に入り込んだようなマンガ飯ならぬ本飯が食べられる図書館を作ってほしい。

時には作品の主題として扱われ、また時にはストーリーの重要な鍵を握る食事。特に私が好きなのは瀬尾まいこ先生の『そして、バトンは渡された』で描かれる食事の数々だ。血の繋がりが無い父である森宮さんが作るさまざまな料理はまさに娘である優子への想いそのものだ。始業式の朝食には朝からハードなカツ丼。受験前日の夜食はケチャップで書いた応援メッセージぎっしりのオムライス。結婚式の朝には優子が大好きなふわふわのオムレツを挟んだサンドイッチ。美味しそうな描写につい涎を垂らしながらも、料理に詰まった想いに胸がほっこり暖くなる。ああ、森宮さんのご飯が食べたい。料理を食べて、森宮さんと優子の心に寄り添いたい。

他にも食べたい本飯は多くある。『植物図鑑』に出てくるフキノトウの煮物にツクシの佃煮。『オルタネート』のバターたっぷりのトウモロコシのおにぎりにヤマブシタケのハンバーガー。『戸村飯店 青春 100 連発』のベーコンと玉ねぎとしめじのビーフストロガノフ。言い出したらキリがない。いろんな本飯が食べられる図書館、そんな場所がうまれることが私の理想だ。でも、森宮さんのご飯を食べながら本を読み返すときっと泣いてしまうだろうな。